

米沢中央高校体育文化後援会会報



女子バレーボール部 春の高校バレー出場



女子バレー部 旦代・湯田ペア 国スポ第7位



将棋 八島 高文祭出場・東北新人戦優勝



男子バレーボール部 東北選手権大会出場



演技部 県大会最優秀賞 東大会出場



男子バスケットボール部 3年生 3×3 U18日本選手権出場



剣道部 東北選手権出場



卓球部 清水・片桐 東京卓球選手権出場

卓球部 片桐 全国高校選抜出場



陸上部 嶋田 (やり投)



陸上部 佐藤 (3000m)



自転車競技 玄冬
インターハイ・国スポ出場



卓球部 四ツ家 全国高校選抜出場



陸上部 笹原 (走高跳)





活躍生徒の言葉

女子バレーボール部

佐藤 鈴

私たちは「気持ち・ねばり・ムード」をモットーに、全国ベスト8進出という壁を越えようと日々の練習に励んできました。インターハイ、国民スポーツ大会では、ベスト16という結果で終わり、強豪校との力の差を感じ、全国で勝つためには、常に質の高いプレーが求められることを学びました。また、チーム・個人の課題を見つけてことができました。そして、今年一月に行われた「春の高校バレー」。三年生の集大成として臨んだ最後の全国大会では、たくさんの方々が会場まで足を運んでくださり声援を送ってくださいました。二回戦敗退という悔しい結果でしたが、自分たちがやってきたことを出し切り、米沢中央らしい粘りあるバレーボールをすることができました。

この一年間、たくさんの方々からいただいた応援は私達の原動力となりました。本当にありがとうございました。ありがとうございました。

国民スポーツ大会に出場して

湯田 笑夢

佐賀国民スポーツ大会ビーチバレーボール競技少年女子に出場してきました。結果は七位

入賞することができましたが、悔しさが残る大会となりました。

五・七位決定戦では、スタートから良い形でプレーすることができ、一セット目を先取ることができましたが、二・三セット目は、相手にリードされる展開となり、自分たちのメンタルの弱さが出てしまいました。また、ここで一点を取れば試合の流れが変わるといふ勝負どころで決めきることができず負けてしまいました。悔いの残る試合となりましたが、勝つためにたくさん指導してくださった監督とコーチ、他県の指導者の方々、いつもサポートしてくれる保護者のおかげで入賞することができたとと思います。

令和七年度は三年間の集大成となるので、目標である全国制覇を達成し、今まで指導・支援してくださった多くの方々に恩返しができるように頑張ります。引き続き、ご支援・ご声援をよろしく願います。

陸上部

全国大会に出場して

笹原 光稀

私は陸上競技部の跳躍ブロックに所属し走高跳をしています。私は今年度3つの全国大会に出場することができました。その中で2つの入賞を勝ち取ることができたことは、私の競技

人生の中で大きな勲章となりました。それでは出場した全国大会を振り返ってみます。

一つ目は6月に行われたU20日本選手権です。この大会には初めての出場でしたが、緊張のせい、雨という天候のせいか分かりませんが、自分の思うように体を動かすことができませんでした。結果は自己記録に遠く及ばない記録で十二位という最悪の結果でした。二つ目は8月に行われた福岡インターハイです。昨年の北海道インターハイでは予選落ちと悔しい思いをしていたのでリベンジしたい大会でした。その結果は昨年の雪辱を晴らす8位入賞でした。記録的には納得いかないものですが、予選・決勝と危なげなくラウンドをこなせたので良かったです。三つ目は国民スポーツ大会です。山形県を代表しての初めての全国大会でプレッシャーがすごかったですが、試合になると緊張も解けて、楽しく試合することができました。その結果、自己ベストタイ記録である2m09cmを跳んで3位という結果でした。2m12cmの試技も惜しい跳躍だっただけに悔しさは無いと言えは嘘になりますが、記録も順位も納得できる結果でした。

私は高校卒業後、春から関東の大学に進学し、陸上競技を続けます。よりレベルの高い大学で様々な困難があるとは思いますが、それを乗り越え、目標である全国制覇を成し遂げたいです。

ようやく立つたスタートライン

嶋田 昊

私は陸上競技部に所属し、主にやり投をしています。高校二年生まで全国大会を経験したことがありませんでした。しかし高校三年生では、東北高校総体で優勝、その後に行われたU20日本選手権では七位入賞をしました。この大会が人生で初の全国大会であり、初入賞でした。また、福岡インターハイでは五位入賞、佐賀国スポでは十位という結果でした。その中でも私が一番に残っているのは福岡インターハイです。高校生しか味わえない全国の舞台で、入賞できたことは本当に嬉しく思います。しかし、それ以上に自分のこれからの可能性を実感できました。これからの私の陸上人生にとって、これからの結果は序章にしかすぎません。上に行くには、たくさん考え、練習の意味を理解して努力を継続することが非常に大事だと思います。

「底辺から上へと無限に続く頂点（テッパン）を、俺は陸上を背負って昇るだけ」

全国大会に出場して

佐藤 譲治

私は陸上競技部の短距離ブロックに所属しています。今年度の福岡インターハイは私にとって2度目の全国大会ということで一年前と

は違う気持ちで挑みました。私は4×100mRの第1走者として臨みました。自分たちが全国大会でどこまで通用するのか？自分たちの力を試したいと強く思っていました。

大会当日、会場の熱気と緊張感に圧倒されましたが、これまでの努力を信じて、そして仲間を信じてレースに臨みました。結果は山形県の高校としては初めて41秒の壁を破る40秒80という山形県高校新記録を更新したものの準決勝進出をあと一步のところで逃してしまいました。とても悔しさは残りましたが、全国の舞台に立てたことや最高のメンバーで走れたことは貴重な経験だったと思います。そして、この大会を通じて自分の課題点や可能性を見つけることができました。もう一度全国の舞台に立つために、日々の練習では大会のビジョンを持ちながら努力を重ねていきたいと思えます。

来年度は高校生最後の年になります。個人的にはこれまで以上に良い記録を目指して全国大会を目指します。また、部長としてはチームをしっかりとめて引っ張っていき、チームとしても成長できるように頑張っていきたいと思います。

全国大会に出場して

全国大会に出場して

桑嶋 飛鳥

私は陸上競技部の短距離ブロックに所属し

ています。今年度の福岡インターハイで私は4×400mRの第3走者として出場させてもらいました。全国の舞台で走ることができ、とても嬉しかったです。しかし、結果は予選敗退というとても悔しい結果でした。インターハイに連れてきてくれた同じチームの3年生の先輩方や、毎日の練習で様々な技術や戦術を教えてくださいました。今回の全国大会では、自分の精神的・技術的・身体的改善点を、多く見つけることができました。これらの改善点を「速く走るためのポイント」として胸に刻みながらこれからの練習に活かしていきたいと思えます。練習で一つずつ確実に改善していき、より速く・強く走れるように頑張っていきたいと思います。

来年度は最終学年になります。今年度の経験をもとにして、連れてきてもらったインターハイではなく、自分たちの力で勝ち取り、勝負のインターハイとなれるように日々努力していきます。

国民スポーツ大会に出場して

深瀬 剛史

私は陸上競技部の短距離ブロックに所属しています。私は10月に行われた国民スポーツ大会に少年男子A300mという種目で出場することができました。リレー種目での全国大

会は経験していましたが、個人種目での出場は初めてでした。さらに300mという種目は珍しく、あまり経験が無いため、最初は不安でいっぱいでした。コーチに相談し、走り方のコツや試合想定イメージを教えてもらったり、個人種目で全国大会の出場・入賞経験がある仲間や部員と意見を交わしたりして、大分落ち着いて本番に挑むことができました。大会結果は予選敗退でしたが、私に足りない部分を気付かせてくれました。他県の選手は体格・筋力・顔付・勝ちたいという気持ちなど全てのレベルが上でした。私にとって国スポに出場できた経験は大変貴重でしたが、まだ第一歩に過ぎません。私は高校卒業後に大学に進学して陸上競技を続けていきます。そして目標である全国入賞を目指して、この経験を糧にしてこれからの練習に励みたいと思います。

全国大会に出場して

佐藤 柁輔

私は陸上競技部の長距離ブロックに所属しています。私は、高校から陸上競技を始めました。三年間の目標として全国規模の大会での入賞を目指し活動してきました。しかし私は三年次の高校総体で東北大会に進むことができず、予選敗退となりました。その結果を受け、もう一度自分を見つめ直し原因を探りました。まず、

レース後半の失速の改善としてジョグの距離を伸ばし基礎体力の向上を目指しました。次に、レース前の緊張の改善として周りを気にせず自信を持つことを意識しレースにのみ集中できるように努めました。その甲斐あって自己ベストを次々更新し、U18陸上競技大会の出場権を得ることができました。初めての全国大会で、会場の雰囲気は驚倒しましたが、自分を信じてレースに集中した結果、目標であった全国入賞、第4位という結果を残すことができました。

私は三年間の陸上競技部での活動を通して、目標を立ててそれを達成するには何が必要かを考えて、試行錯誤しながら取り組んでいくことの大切さを学ぶことができました。高校卒業後は関東の大学に進学して競技を続けます。箱根駅伝などで活躍できるように、しっかりとした目標を立て、目標達成に向けて試行錯誤しながら頑張っていきたいです。

全国大会に出場して

草名木 悠人

私は陸上競技部の投擲ブロックに所属しています。私は今年度、U18陸上競技大会という全国の舞台で競技することができました。全国大会は1年次に出場した国民体育大会とU16陸上競技大会以来、2年ぶりの出場でした。

全国大会という舞台で競技できたことは、私にとってとても貴重な経験となりました。

大会本番では、普段の大会とは違う緊張感がありました。その中でも自分の力を発揮することを意識しました。しかし、思うような結果をすることができず、満足のいくような結果を残すことはできませんでした。全国大会のレベルの高さを改めて実感することができ、技術不足やメンタルの弱さなど、多くの課題を見つけられました。また、全国とで活躍する選手たちを間近で見ることができ、たくさんの方の刺激を受けました。その選手たちの技術や、競技への取り組み方を参考にしたいと思いました。

私は卒業後、関東の大学に進学して陸上競技を続けます。今回の全国大会を通して経験してきたことを無駄にせず、これからの成長につなげていきたいです。そして応援してください。多くの方々に結果で恩返しできるように、大学でも頑張ります。

全国大会に出場して

穴沢 咲良

私は陸上競技部の投擲ブロックに所属しています。私は全国大会出場を目標に日々練習に取り組んできました。しかし、一年生の時は東北大大会に出場することさえできませんでした。

同級生の部員ほとんどが東北大会に出場する中、私は学校のグラウンドで悔しさを噛み締め練習に励みました。二年生になると県内では負けることなく、東北大会でも争えるようになりまし。ですが三年生を迎えた今年度の東北高校総体では大事などころで力を発揮することができず、インターハイ出場を逃してしまいました。それでも全国大会出場という目標を諦めず、U18陸上競技大会出場に向けてより一層努力を重ねました。その結果、自己ベストを大幅に更新し、U18陸上競技大会に出場することができました。諦めなければ努力は報われると実感した瞬間でした。U18陸上競技大会は年齢別の全国大会です。この大会もレベルの高い選手が多く、決勝に残ることはできませんでしたが、全国の舞台で自分の力を出し切ることができました。この経験を今後の生活に活かし、目標達成に向けて努力を重ねていきたいです。

柔道部

土屋好多郎

私は今年度の県総体の60kg級で優勝し、北部九州インターハイに出場することができました。インターハイでは初戦で佐賀県代表の選手に負けてしまいました。二年生で全国大会に出場し大きな会場の雰囲気を感じることができたことは、今後にとって非常に良い経験に

なりました。また、十一月の全国高等学校柔道選手権の県予選でも優勝することができ、三月に行われる本戦への出場権を獲得することができました。インターハイでの悔しい思いを糧にし、米沢中央高校柔道部初の入賞、そして表彰台を目指して、毎日の練習に励んでいます。来年度の私にとって最後のインターハイ予選では個人だけでなく、団体でも優勝し、創部初の団体戦での全国大会出場を目指し、チーム一丸となり頑張っていけます。今後ともよろしくお願いいたします。

土屋英多郎

私は、柔道競技73kg級の山形県代表としてインターハイに出場することができました。結果は一回戦敗退という悔しい結果でしたが、それ以上に一年生からインターハイの舞台で試合をすることができ、非常に良い経験になりました。また、十一月の県予選でも優勝し、三月に行われる全国高等学校柔道選手権の出場権を獲得することができました。本戦では、インターハイでの経験を活かしつつ一年生らしい柔道で、相手が格上の選手だとしても全力で戦い、次の大会にもつなげられる試合をしたいと思えます。また、大会の運営をしてくださる方々、応援してくれる家族、チームメイト、先生方、そしてこれまでチームを引っ張ってきて

くれた先輩方などの多くの方々への感謝を忘れずに大会に臨み、「優勝」というよい報告ができるように頑張っていきたいです。

菊池琉音

私は、三月に東京の日本武道館で行われる全国高等学校柔道選手権大会に出場します。高校に入って初めての全国大会で、不安や緊張がありますが、自分らしい柔道ができるように堂々と胸を張って精一杯頑張ります。この大会は、私にとって日本武道館で試合をする最初で最後の大会になると思います。悔いがないようにすることはもちろん、試合を楽しむということも大切に試合をしたいと思えます。一月下旬に行われた東北大会では二回戦敗退という悔しい結果で終わってしまいました。本戦までまだ時間があるので、悔しさをバネにし、日々の練習を頑張っていきたいです。

佐藤 百華

私は八月に行われた大分インターハイに出場し、ベスト16という結果でした。インターハイでは全国レベルの選手との技術の差や勝利への執念の違いを痛感しました。一方で、柔道は勝敗だけでなく、常に自己を磨き、忍耐強く取り組むことが求められるスポーツであるため、全国で結果を残せたことは私にとって大

きな自信になりました。

私の目標は、全国大会で入賞することです。一月に行われた東北選手権大会では、決勝戦で力及ばずに二位に終わりました。一番の課題は「組み手」です。これは試合の勝敗を左右するものでもあるため、全国まで意識的に取り組み、より良いものになりたいです。

三月に行われる全国高等学校柔道選手権大会では、憧れの舞台である日本武道館で試合ができる喜びを胸に、全力を出し切り、入賞を目指します。そして、支えてくださる全ての方々の期待に応え、結果で恩返しができるように頑張ります。応援よろしく願いいたします。

卓球部

全国選抜に向けて

四ツ家 輝

この大会に出場するためにまずは県大会を勝ち続ける必要があります。その中で自分の強敵である他校の同じ一年生を倒すことが全国選抜に出る条件でした。その強敵をフルゲームで倒し、全国選抜へ出場することが決まりました。しかし、出場するだけでは自分の成長につながらないと思い、ある目標を立てました。それは、私が通う米沢中央高校でこの大会に出場してきた先輩方の成績を超えることです。そのためにも日々の練習から変えていき、目標達

成できるよう頑張りたいです。いつもの練習メニューではなく、よりハードな練習をし、そのうえでなるべくミスを減らして技術を磨いていきたいです。この大会は私より強い選手がいるので、気持ちで負けず、一つでも多く勝ちたいです。

たくさん支えられて

片桐 真祐美

県新人大会では、シングルスで全国選抜に出場できる選手と学校対抗で上位大会に出場できる学校が決まる。これらの種目での上位大会進出は県新人大会の前の私にとって両方狙える条件だった。これを知った私は、いったん学校対抗で東北選抜に出場できるように頑張ろうと県新人大会をむかえた。しかし、東北選抜をかけた大事な試合で私が負けてしまい、学校対抗での東北選抜出場の道は途絶えてしまった。仲間に対する申し訳ない気持ち、勝負どころで勝てない自分に対する悔しさでたまらなかつた。そんな私にはもう一つ、その直後にあるシングルの条件があった。絶対ここで勝って仲間やコーチ陣に恩返ししようと思いを切り替えてシングルスに挑んだ。そうしてむかえたシングルスは今まで一番調子が良く、強敵とされている相手にも勝つことができた。そして、応援してくれた仲間たちのおかげで全国

選抜の切符を掴み取ることができた。そして、全国選抜ではその感謝の気持ちを伝えられる試合にできるように頑張っていきたい。

誰よりも楽しむ！

清水 希美

私は、3月に行われる東京選手権という大会のダブルスの部に出場する。これまでに、シングルス、団体で全国大会に出場したことはあったが、ダブルスで出場するのは初めてだ。本選まで約一か月となり、ほぼ毎日のようにダブルスの練習をしている。ペアを組み始めた頃は何かもうまくいかず、壁に衝突していたが、今はお互いに楽しくプレーできている。本選までの一か月間、さらに練習に励み、目標である初戦突破を達成したい。勝ち負けにこだわらずに楽しみながら試合をし、全国という舞台を誰よりも楽しみたい。

バスケットボール部

全国大会に出場して

岡崎 吉樹

四年前、本校は「第7回3×3 U18日本選手権」において『全国制覇』を達成しました。私達も先輩方の輝かしい功績を越えることを目標に、大会に参加しました。

一〇月の県予選では、中々自分達らしいプレ

一ができませんでしたが、何とか勝つことができました。一月の東日本ラウンドでは予選で

一敗してしまいました。そこから仲間と協力し劣勢を跳ね返し、その後勢いに乗って三連勝！結果、四位通過で全日本大会へ出場することができました。一月の全日本大会では、初戦岡山県代表と対戦。序盤はリバウンド&ルーズボールといった泥臭いプレーで流れを作っていました。終盤1mを越える留学生にリバウンドを支配され一四対一七で敗退しました。その瞬間、私達の「第11回3×3 U18 日本選手権」は終わりました。しかし、この経験を通して多くの事を学ぶことができました。このメンバー四人は次のステージでもバスケットボールを続けます。Next stageでもより高みを目指し、挑戦していきます。応援ありがとうございました。

演劇部

東北大会に出場した感想

今年度、私たちは第57回東北大会に出場することができました。去年、講評委員として観ていた舞台に実際に自分が立つと思うと大きな不安とどんな結果になるかという気持ちが込み上げて、より一層練習に励むことができました。一日一日を無駄にしないように毎日の練習時間を大切にして、卒業した先輩や部員皆で

力を合わせて舞台を完成させることができました。

遂に迎えた東北大会当日では、他の学校さんの舞台を観劇しながら、レベルの高さに闘争心を燃やしていました。そして自分たちの上演時間がやってきました。本番では練習の成果を発揮することができ、満足のいく舞台を発表することができました。なにより、楽しんで舞台に望むことができたのが一番の成果だったと思います。上演が終わったあとに沢山の方からお褒めの言葉を頂けて、頑張ってきた良かったと思うことができました。審査員講評では、自分たちでは気づかないような観点からとても勉強になるお言葉を頂け、この言葉をバネにもっと頑張ろうと部員全員で前向きな気持ちで東北大会を終えました。残念ながら優秀賞を取ることはできませんでしたが、それ以上に沢山の方々に評価してもらったことができて自分たちの努力が認められたように感じられ、とても嬉しかったです。部員全員で一つの目標に向かって大きな努力をすることがどれだけ大変で楽しいものかを改めて感じる事ができました。

第57回東北大会では、心身共に多くの学びを得る機会になりました。来年度も東北大会に進出できるようにより一層頑張っていきたいです。

自転車競技

渡邊 玄冬

私は、高校競技生活での目標として全国大会での入賞を目指していました。目標達成をかけた最後の年ということもあり、以前と練習環境も変えて本気で取り組んだ一年でした。平日は朝練と帰宅後の練習。そして、毎週末県外の競技場に行き練習をしていました。練習する中で思うようにタイムが伸びず、挫折しかけたときもありました。しかし、そんなことが気にならなくらいの成長が始まっていました。インターハイの県予選では、県記録を更新し、東北大会では二位。そして、福岡インターハイでは第九位になることができました。私の練習の成果が報われた瞬間であり、とても嬉しかったです。とを今でも覚えています。全国入賞という目標には僅かに届かなかったものの、競技生活を通して、人間的な面も含め、多くの部分で成長することができました。そして、この三年間を通して学んだことを今後の人生においても大切にしていきたいと思えます。ありがとうございました。

将棋

八島 仁乃

私は次のような目標を持って米沢中央高校の特進コースに入学した。一つ目は将棋の全国

大会で優勝することである。私が将棋と出会ったのは六歳の頃、当時私が通う習字教室で偶然にも将棋盤が自分の目に留まり興味を持ったことがきっかけである。二つ目は社会に何らかの形で貢献することや人に夢を与えられる存在になることだ。そのために大学に進学し、教養を深め、人間性の幅を広げる必要がある。

高校一年生で迎えた今年の最高成績は、長崎県で開催された全国高文連将棋新人大会ベスト16である。まず、この大会に出場するには山形県の頂点に立たなければならない。県内には山形東や山形南などの実力ある選手が多く、そこを勝ち抜いて優勝することは決して簡単ではない。そんな中、勝負所での集中力と展開を読み切る力を発揮することで優勝することができた。続く東北大会でも自分の力を信じ、決して焦らない・油断しない対局で一年生ながら優勝に輝くことができた。

今後は「全国の頂点」という目標と「もっと上達したい。」という気持ちを大切にしながら粘り強く将棋と向き合いたい。また、将棋を通して新しい発見や幅広い年齢層の方々と出会うことで人間性の幅を広げてきたことも大きな財産となっている。最後に、米沢中央高校の各先生方には引率や激励、そして声援を頂きました。感謝申し上げます。どんなときでも感謝の気持ちを忘れず、謙虚な姿勢で努力を積み重ねていきたい。

ねていきたい。

各部・愛好会の活動

柔道部

顧問 土屋 好英
部長 手塚 世羅
加藤 誠教
今年も新入部員を迎えることができ、一年間、活動を続けることができました。ありがとうございました。

さて、県総体の個人戦では、男子60kg級で土屋好太郎、73kg級では土屋英多郎の二名が、女子では52kg級で佐藤百華が優勝し、夏の全国大会の出場権を二名の部員が獲得しました。大分県で行われた全国大会では、残念ながら三名全員が一回戦敗退という結果でしたが、次につなげることができると試合内容でした。また、盛岡で行われた東北大会には個人戦で九名が出場し、66kg級で小池聖が二位に、60kg級で市川暖大と52kg級で佐藤百華とが三位に入賞することができました。これまで東北大会に参加してきたなかで最も良い成績を残すことができました。

秋に行われた県新人大会の三週間後には全国高校柔道選手権山形県大会が行われました。

優勝すれば三月に開催される全国大会につながるのでは、気合も十分に臨んだ試合でしたが、男子団体、女子団体共に東北大会への出場権を獲得することはできませんでしたが、悲願の団体での全国出場にはあと一歩届かない結果となりました。個人では土屋好太郎が60kg級で、土屋英多郎が73kg級で、菊池琉音が48kg級で、佐藤百華が52kg級で優勝し、柔道部で過去最多の全国大会への出場資格を得ました。また十二月に行われた東北大会では52kg級で佐藤百華が第二位となることができました。

十分な力を持ちながら、なかなかそれを発揮することができず、不甲斐ない結果に終わってしまいました。全国大会への出場は、昨年度に引き続き個人戦で夏と冬の二回の出場をすることができました。ですが、次こそは団体戦で勝利し、全員で行きたいと思えます。三月の全国大会について良い報告ができるように、これからも頑張っていけますので、よろしくお願いたします。

女子バレーボール部

顧問 石田 和也
主将 佐藤 鈴
穀野 美穂

日頃、体育文化後援会並びに会員の皆様には

物心両面に亘り、援助、応援を頂きありがとうございます。

今年度の女子バレーボール部は、六月の県高校総体において、決勝で上山明新館高校をセツトカウント二対〇のストレートで破り、四年連続十二回目の優勝を果たし、大分県で開催された全国高等学校総合体育大会に出場しました。

全国大会では、予選グループ戦で佐賀清和高校（佐賀県）に勝利し、決勝トーナメントへ進出しました。決勝トーナメント二回戦は予選で対戦した佐賀清和高校（佐賀県）との戦いとなり、安定したプレーで勝利しました。三回戦はベスト8進出をかけた東九州龍谷高校（大分県）と対戦しましたが、相手の高さに打ち勝つことができず、〇対二のストレートで敗戦しました。

八月の東北総合スポーツ大会では三位決定戦で岩手県に勝利し、佐賀県で開催される国民スポーツ大会への出場権を獲得しました。国民スポーツ大会では一回戦で岡山県に敗れ、上位進出とはなりませんでした。

十月に行われた全日本バレーボール高等学校選手権大会山形県代表決定戦大会では、決勝で山形商業高校をセツトカウント三対〇のストレートで破り、五年連続十四回目（春高としては十五回目）の優勝を果たし、バレーボーラー憧れのオレンジコート、春高バレー全国大会の出場を果たしました。

全国大会では一回戦で日南学園高校（宮崎県）に二対〇のストレートで勝ちましたが、二回戦で下北沢成徳高校（東京都）に〇対二のストレートで敗れ、ベスト十六を超えることができませんでした。悔しさとともに全国の壁の厚さを痛感しました。これまでの三年生の頑張りには感謝します。

春高が終わり二週間後に行われた県新人大会では、短時間での新チーム作りに加えケガ人もおりましたが、十四回目の優勝を果たしました。その後、二月に行われた東北新人大会では、決勝で古川学園高校（宮城県）に〇対二のストレートで敗れ、結果準優勝でした。

来年度は、すべての県大会を制し、全国の舞台でこれまでの実績を上回る結果が出せるよう、日本一を目指し頑張ります。

男子サッカー部

顧問 小形 悠也
尾田 憲昭
主将 高橋 壘
安孫子 定彦

日頃より男子サッカー部の活動にご支援、ご協力くださりありがとうございます。

今年度は高校総体、選手権、新人戦と思うような結果を残すことができませんでした。リーグ戦では上位に入ることができ、山形第2代表

としてプリンスリーグへの参入戦に出場することができました。7年ぶりに出場し、プリンスリーグへ昇格するチャンスを得ることができました。トーナメント戦で3回勝つことが昇格する条件でした。1回戦に青森の代表チームと当たり1対1のPK戦の末に敗れました。内容としては力の差がそこまであるわけではなかったのですが、前半緊張のせいかわゴール前へ迫る回数が少なく失点もしてしまいました。ハーフタイムを終え、後半はいつも通りのプレーを取り戻し、ゴールに迫る回数が増え後半ロスタイムでファールをもらいPKから同点に追いつくことができ、そのままPK戦へと突入しました。しかしPK戦で敗れ、勝ち進むことができませんでした。しかし年間通して粘り強く必死に戦った結果、貴重な経験ができたことを嬉しく思います。

またこの冬から鍛えていき、来年度は今年度よりいい成績を残せるよう、日々精進していきたいと思えます。

最後にお忙しい中、物心一つで支えてくださった関係者の皆さまありがとうございます。

陸上競技部

顧問 小口 郁生
澤田 賢一
部長 佐藤 謙治

今年度は六月に行われたU20日本陸上競技選手権で嶋田昊(三年)が男子やり投で七位に入賞したのを皮切りにして、八月に行われた福岡インターハイで嶋田の男子やり投が五位、笹原光稀(三年)の走高跳が八位にそれぞれ入賞した。インターハイは二年連続入賞となって勢いをつけると、十月に行われた佐賀国民スポーツ大会では笹原の少年男子共通走高跳がインターハイの悔しさを晴らす三位を獲得。そして同じ十月に行われたU18陸上競技大会で佐藤柊輔(二年)の男子3000m四位入賞で締め括った。

四つの全国大会で入賞することができたことは近年最高レベルである。また、十月の下旬に行われた県高校駅伝では五位入賞を果たし十五年ぶりに東北高校駅伝に出場した。県高校総体では男子総合と男子フィールド総合が二位になり、男子総合優勝まであと一步であった。

次年度は広島県で行われるインターハイや滋賀県で行われる国民スポーツ大会などの各種全国大会で今年度以上の活躍ができるように現在厳しい冬季練習に励んでいる。また、ここ二年間のインターハイでは応援がとても大きな力となったと感じているが、現在の部員は一昨年までのコロナウィルスの影響のため、無観客や声援のない大会しか経験していない年代である。それだけに普段でも挨拶や感謝の気持ちを表したりすることに苦手意識を持って

いる部員もまだまだ多い。競技成績が高い学校はどの学校を見ても挨拶は素晴らしく、受け答えも立派である。裏を返せば、できなければ全国の強豪校と戦えないということである。私たちが目指している全国優勝を達成するためにも、当たり前のことをしっかりとできるようにして、誰からも応援してもらえようような集団を目指して行きたい。

卓球部

顧問 橋本 匡史
部長 伊藤 充輝
清水 希美

体育文化後援会の皆様には日頃御協力、応援いただきありがとうございます。今年度も「生徒自ら考え、教え合い、挑戦していく」というスタイルで活動しています。生徒達で教え合い、みんなで技術を共有することでチーム全体の力がついてきたように感じます。

今年度の地区高校総体では男女学校対抗、男女ダブルス、男女シングルの全6種目で優勝でした。県高校総体では男女ともに学校対抗2位で東北出場、ダブルスでは高橋・伊藤ペア、シングルスでは高橋、伊藤、四ツ家、清水の4名が東北大会に出場できました。特に男女学校対抗で東北の切符を掴むことが出来たのはたくさんのご支援のおかげです。続く地区新人大

会では、男女学校対抗、男女シングルの全4種目で優勝しました。県新人では男女学校対抗ともに3位、さらに女子シングルスで片桐が3位に入賞しました。その中でも男子学校対抗は東北選抜大会、1年四ツ家、1年片桐は全国選抜大会の出場権を獲得することができました。また、清水・片桐のダブルスが県予選2位で東京卓球選手権の出場権を獲得できたことも今年度の収穫です。現在は来年度学校対抗での全国大会出場を目指し、再スタートを切ったところです。

実力や経験の違い、各々の目標の違いはあっても卓球が好きで毎日活動できる環境を作り、さらには応援してもらえるチームを目指して頑張っていきたいと思えます。これからも応援よろしく願います。

剣道部 「心く人として」

顧問 戸田 憲生
男子主将 松井 祐太
伊藤 飛龍
加藤 昂平
女子主将 高橋 百香
鈴木 寧夢

昨年度まで剣道部は、おかげさまで全国大会3年連続出場の実績を始めとして、県公式戦(総体・選抜・国体)のベスト4以上が18年

連続の通算63回、東北大会は15年連続の通算39回出場と、全国の上位を狙えるレベルにある山形県高校剣道界において、置賜地区としても過去例を見ない、輝かしい実績を残しています。

体育文化後援会の皆様、またこれまで本校剣道部に関わって下さった全ての方々のおかげです。本当にありがとうございます。

今年度の県高校総体では、残念ながら全国大会には届かなかったものの、男子団体・女子団体で第3位、さらに女子個人で齋藤里桜(米沢三中)が個人戦で上位に勝ち上がり、3部門で通算38回目となる東北大会に出場しました。

その後、国スポ県予選でも男女とも第3位に入賞し、有終の美を飾った3年生の「心」を引き継いだ新チームは、夏の初戦、県内で最も権威と伝統ある第71回山形県剣道大会で、男子団体が準優勝を飾り、好スタートを切りました。

さらに県新人大会・東北選抜県予選会では女子団体が優勝チームに1本差に迫る準優勝、2月に福島市で開催される東北選抜の出場が決定しました(通算39回目)。女子個人戦では川井央翔(赤湯中)が第3位に入賞し、今大会の戦いぶりが評価され、滋賀国体に向けた県選抜チームに、川井とともに鈴木寧夢(米沢一中)の2名が選出されました。

そして迎えた1月の全国選抜県予選(団体

戦)、ケガ等でベストメンバーが組めなかった男子団体は上位に進出できなかったものの、女子団体が県新人に引き続き決勝に進出し、「これに勝てば全国選抜」というところまで迫りましたが、この大一番で本来の力を発揮できず、またしても1本差の準優勝に終わり、これ以上ない悔しい思いをしました。

しかし彼らは男女とも中学時代、県レベルの実績がゼロの「雑草軍団」であり、とにかく県内のどのチームよりも稽古を積み重ねてこままで強くなってくれました。

今年度もあと一歩というところで全国選抜出場を逃しましたが、彼らはその悔しい思いを胸に、来年度の県総体のラストチャンス、「男女団体優勝」広島インターハイ団体出場」を目標に再設定し、今も真摯に、誠実に竹刀を振り続けています。

何の実績もない地元・地域の高校生が稽古稽古、人間的な精進を積み重ね、正しく大きく強くなる。

「全国制覇」というよりも、そういう「日本の部活動」が我々の最終目標であり、そんな修行の果てに、みんなの最後の夢「団体で全国」はあると、私達は考えています。

我々剣道部は大会実績以上に建学の精神にも繋がる「心々人として」を旗印に、剣を磨き、人間を磨き、これからも日々精一杯、精進

していきます。

野球部

- 部長 石崎 裕樹
- 監督 色摩 孝二
- 顧問 工藤 功輝
- 佐藤 叡一
- 主将 渡部 正大

日頃より体育文化後援会関係者の皆様には、本校野球部に対して多大なるご声援とご支援をいただき感謝申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響も最小限に、以前の様式に近い形で無事全ての大会に参加することができました。

昨年の悔しさを胸に、冬の期間トレーニングに励み、徐々に力もついてきた状態で臨んだ春季大会でしたが、課題が多く残る結果となりました。春季大会で出た課題を克服するべく、チーム一丸となって練習に励み迎えた夏の大会。シード権を持つ酒田東、第四シードの酒田南に苦しみながらも粘り強く勝ち、三回戦で寒河江を破って迎えた準々決勝山形商業戦でしたが、ベスト8で力尽きる形となりました。三年生の大きな成長を感じられる大会になりましたが、目標達成とはなりませんでした。

3年生の悔しさを晴らすべく始動した新チームでは、県大会の一回戦で創学館に敗れ、と

でも悔しい思いをしました。この悔しさをまたバネにして、この冬の練習に励んでいきたいと思えます。

一年を通して、多くの方から多大なご声援をいただき、本当にありがとうございます。私たちは、野球を通して人間の成長ができる環境づくりをすることが、甲子園出場のカギだと信じて活動していきます。

最後になりますが、今年こそは勝利での恩返しをできるよう、歓喜の瞬間を共に味わえるよう、心から願っています。

何卒今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願ひします。

女子ソフトボール部

顧問 近 昭浩

小松 峻輔

主将 鈴木 寿梨

新主将 小関 詩珠

会員各位の皆様には平素よりソフトボール部に対し格別のご厚情をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、今年度特筆すべきはたった四人の三年生で東北大会まで勝ち進み一勝を上げたことです。春の東日本大会でのベスト16進出はまぐれではないことを証明しました。これも下級生が必死で上級生についていけたこととそれ以上

に毎週のように保護者や地域の方と活動を共有できたことの成果なのではないでしょうか。これまでご支援、ご協力いただいたことに対して深く感謝の意を表します。

新チームは国スポ山形県大会において県選抜チーム相手に善戦健闘の惜敗で第3位から始まり、秋の県新人大会では2年連続準優勝と躍進しました。東北大会では福島代表に最終回まで3対1でリードする健闘も最後は逆転負けを喫しましたが僅差の敗退で3月に行われる東日本大会への出場権を2年連続で獲得しました。この大会は北は北海道、南は静岡までの精鋭32チームが出場するとても大きな大会です。大会を通していろいろな真心に触れ成長してまいりたいと思っております。

また、新年度には新入部員を迎え日常の校内外の奉仕活動はもちろんのこと地域のソフトボールを愛好する人々の活動母体となれるよう準備を進めて参りたいと思います。春には大きな大輪を咲かせられますよう今後も精進して参りますのでより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

男子バレーボール部

顧問 舟木 周

主将 手塚 誠乃介

今年度6月に米沢市を会場に行われた県高

校総体ではノンシードから勝ち上がり、第3位に入賞することができました。また、39年ぶりに東北選手権大会への出場を果たすことができました。1月の県新人大会でも第3位に入賞し、昨年度を越す成績を残すことができました。高校入学まで県大会での実績がない置賜地区の生徒だけで活動している私たちにとっては、大きな成長であると言えます。選手たちの頑張りはもちろん、たくさんの方の支えや応援のおかげです。体育文化後援会の皆様、また、これまで本校男子バレーボール部に関わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。来年度以降も先輩方の伝統を受け継ぎ、勝つにふさわしいチームとなれるよう、生徒・スタッフが一丸となって、より一層の努力を続けて参ります。今後も米沢中央高校男子バレーボール部をよろしくお願ひいたします。

女子サッカー部

顧問 尾田 憲昭

青木 藤禎

主将 都 音葉

本年度は一年生七名、二年生四名、三年生十二名、マネージャー三名で活動してきた。

今年度の戦績は六月の県高校総体で第3位、八月の皇后杯は二連覇を目指したものの山形明正高校に敗れ準優勝であった。シーズンを通

した県リーグ戦においても2連覇がかかるなか9勝1敗0分けで惜しくも準優勝であった。ただ、得点王、アシスト王が当チームから輩出できたことは個人を支えるチーム力があつたことと思います。九月の高校選手権、十一月の県新人戦は準決勝とともに鶴岡東高校に敗れ第3位という結果に終わった。

私たちのフィロソフィーはサッカーを通じた人としての成長と応援されるチームづくりを目指しています。来年度は5タイトル制覇を目標に掲げ、達成に向けひたむきに活動していきます。

最後になりますが、体育文化後援会の皆様には、物心両面にわたるご厚志に深く感謝申し上げます。今後とも変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

バスケットボール部

顧問 小野 賢一郎
 主将 布川 稜馬
 新主将 後藤 蒼大
 日頃より体育文化後援会関係の皆様には、ご支援いただき感謝申し上げます。

今年度、バスケットボール部は、四月・藤井高野杯・六月・県高校総体・十月・ウィンターカップ県予選とすべて準優勝という悔しい結果でした。特に、ウィンターカップ県予選決勝

では残り5,3秒まで、3点リードしている状況から相手に同点弾を入れられ本当に悔しい敗戦となりました。しかし、六月の県総体で30点差の大差で敗戦した相手に、最後まで分からない展開の勝負ができるまで三年生を中心に「TEAM」として大きく成長してくれたと思います。今後は、「全国で戦う！」をスタンダードにして日々精進していきます。

また、新年早々開催された県新人大会では、先輩方の協力もあり、準決勝までは順当に勝ち進む力がついてきましたが、上位で戦う基礎基本の徹底が、まだまだ力不足だと実感しました。冬のトレーニングに献身的に取り組み、春に大輪の花を咲かせられるように努力して行きま

す。
 最後になりますが、米沢中央らしくさわやかに活動していきたいと思えます。これからもご支援・ご協力のほどよろしく願います。

ソフトテニス部

顧問 香坂 圭一
 主将 山口 稜太
 孫田 慶冬
 高橋 都

米沢中央高校ソフトテニス部は創部から四年が経ちました。本校の建学の精神である「才智より出でたる行為は軽薄なり。心情より出で

たる行為は篤実なり。」を活動の柱とし、人間性を高め社会で活躍できる人間に成長することを目標に活動しています。

今年度は新人部員が男子四名、女子が八名加入し総勢三十八名で日々練習に励んでいます。今年度の県高校総体においては、個人戦で男子は、吉田蒼真(三年)・佐藤陸(三年)ペア、孫田慶冬(二年)・山本焯人(三年)ペアがベスト一六、女子は渡邊綺來音(一年)・小浦映菜(一年)ペアがベスト一六に入りました。団体戦では男女共に準々決勝で敗退しましたが、三年生を中心として、一致団結した姿を見せてくれました。

新チームとして迎えた県高校新人大会では男子団体で第三位入賞、女子団体が第五位という結果でした。また、個人戦では男子の孫田慶冬(二年)・四釜叶太(二年生)ペアが第五位、伊藤聖汰(二年)・伊藤 結斗(一年)ペア、橋本開(二年)・菅野 裕斗(二年)ペアがベスト一六に入りました。女子では、渡邊 綺來音(一年)・高山叶羽(一年)ペアが第三位入賞、小山恵生(二年)・小浦映菜(一年)ペアがベスト一六となりました。県新人大会での個人戦三位入賞は創部以来初となります。

続く全国選抜大会山形県大会では、男子が第三位、女子が第五位という結果を残すことができました。今年度のこれらの結果は生徒たちの努力はもちろん、スタッフのサポート、そして

常に一番近くで支えてくれる保護者の方々の
おかげだと感じています。本当にありがとうございます。
ご来年度は心技体のさらなる向上に努
め、個人団体共に全国大会出場を果たせるよう
頑張ります。最後に、いつも応援してくださる
体育文化後援会の皆様には心から感謝してい
ます。今後ともソフトテニス部をよろしくお願
い致します。

音楽部

顧問 土田 拓志
部長 情野 美陽

音楽部は、四月に新入部員を迎え二十一名で
活動をスタートしました。今年度は感染症によ
る活動自粛がほとんど解除され、毎日精力的に
活動することができたと感じています。また、
演奏活動は地区の合唱祭や文化祭に留まらず、
福祉施設での訪問コンサートやイオン米沢店
の間をお借りして演奏をするなど、新しい活
動にも様々挑戦しました。特に一大イベントで
ある夏に開催された定期コンサートは、今年で
十回目という節目の年であったので、過去のOB
の先輩方をお呼びして過去一番の規模で開催
しました。この様子はテレビでも放送され、好
評の言葉を様々いただきました。この喜びを忘
れずに来年度も活動していきたいと思えます。
最後にご指導、応援してくださったすべての

方へ感謝を、そしてそれに応えられるように今
後とも邁進したいと思えます。

写真部

顧問 青木 藤禎
部長 湯本 真子

写真部は、今年度、「県大会での上位入賞」を
年間目標とし、1年生3名、2年生9名で活動
しました。今年度は、これまでカメラを持った
ことがなかった部員がほとんどだったため、カ
メラの機能や操作の仕方を学ぶこと、カメラを
身近なものに感じることからスタートしまし
た。部員同士で教え合ったり、自分たちで調べ
たりと試行錯誤しながらの活動でした。日々新
しいことを学び、楽しみながら活動できたよう
に思います。

具体的な活動としては、昨年度と同様に、米
沢市内の公園や神社に足を運び、自然の様子や
風景、生き物の姿に触れながら撮影を行ってき
ました。さらに、今年度は生徒会行事の撮影や
放課後の時間帯を利用して市外での撮影、学校
ホームページへの投稿など、活動範囲を広めま
した。

今年度の目標であるコンクールなどへの出
展については、読売新聞主催高校生フォトコ
ンテストに出展し佳作となった作品がありま
した。来年度は、さらに各種コンテストに参加

し、上位入選を目指して頑張りたいと考えてい
ます。

皆さんの身近なところに撮影に伺った際に
は、ご協力のほどよろしくお願い致します。

CMC部

顧問 斉藤 信也
部長 香坂 匠哉

今年度は一年生の新入部員の入部がゼロ人
という大変な年となってしまった。

二年生、三年生でその原因を分析検討し、写
真撮影などの取材ではCMCと書かれた「ビブ
スを着用」したり、情報処理室内での活動だけ
でなく、「外活動」と称して、置賜建設さんの道
路工事現場に直接行き、ICTが土木現場でど
の異様に活用されているかを見学したり、飯豊
町の電動モビリティシステム専門職大学で「口
ポットプログラミング」の体験に参加したりと、
校外での活動も行った。

また、話題となり急速に普及しているが何者
かよくわからなかった「AI」について学習を
進め、現在話題となっている生成AIがどのよ
うな仕組みで動いているのか。AIで覇権を握
ろうと各社が熾烈な争いを行っていることな
どを学習した。

更にプログラミングについても学習を進めている。現在はデータを並び替えるソートのアルゴリズムである「バブルソート」、「選択ソート」、「挿入ソート」のプログラムを作り、それぞれのソートアルゴリズムで千件のデータを百回繰り返すシミュレーションを行い。その結果を箱ひげ図で比較するプログラムを作った。現在は「クイックソート」や「ヒープソート」などのプログラムに挑戦している。

今年度は新入部員ゼロからスタートし、その反省から今までの活動を見直したり、新しい活動に挑戦する年となった。

JRC部

顧問 青木 聡子
 広末 大悟

部長 後藤 亜衣莉
 JRCとは、青少年赤十字（ジュニア・レッド・クロス）の頭文字を取ったもので、日本赤十字社の一部門に属します。

現在、部員は一年生一名、二年生七名、三年生五名の計十三名で活動しております。今年度も震災の募金活動や校外のボランティアを中心に「気づき・考え・実行する」をスローガンに社会福祉に取り組んでいます。他団体のイベントスタッフのボランティアや地域の高齢者宅へはがきを書き社会福祉協議会を通じてお

渡しするなど、地域での活動にも積極的に取り組んでいます。今年度から始めた活動としては、学校正門に花壇を作成し、景観を改善し、その整備を続けています。さらに、毎週金曜日の放課後に、米沢中央幼稚園のお手伝いをする活動も弊部を中心に行っています。以上のように、日々、学校内外に活動を広げています。来年度は、より活動の幅を広げていきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

吹奏楽部

演劇部

顧問 加藤 誠教
 部長 遠藤 なつめ

今年度は、新入生一名を迎え、六人での活動になりました。S、Sの先輩、保護者の方々に支えられて、楽しみながら成長することができました。

七月の定期公演は、一年生を加えての初めての舞台でした。役者全員のスキルアップのための公演でしたが、課題が多く見つかる公演となりました。次に、地区大会が九月にありました。全員が力を出し切り、自分たちの納得いく舞台を作ることができました。その結果、有難いことに県大会への出場が決まりました。県大会へ

は三年ぶりの出場となりました。南陽での開催だったので、私たちが大会運営に当たり、朝早くから夜遅くまでの運営の仕事を手伝いました。その間を縫って、直前の練習を行いました。練習時間が少なかったですが努力が実り、二十三年ぶりに東北大会に出場することができました。東北大会では各校のレベルが高く、勉強になることが沢山ありました。残念ながら全国大会には進むことが出来ませんでした。多くが、多くの学びと経験を得ることができました。

来年度は今年度の反省を活かし、さらにスキルアップ出来るように精進していきたいです。改めて、支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

美術部

顧問 佐藤 正夫
 部長 清水 心愛
 新部長 高橋 ほのか

美術部は一年生6人、二年生5人、三年生2人で毎週火曜日と木曜日に活動しています。セミナーハウスが活動場所です。仲良く自由に絵を描いています。

初心者ばかりの部活ではありますが、希望進路として美大を視野に入れている生徒もおり、これからさらにスキルアップしてほしいです。

今年度は、三年生の二人がえくぼ絵画展に出展するなど意欲的な取り組みをしてくれました。また、学園祭でもこれまでの作品を展示するだけではなく、教室自体にテーマを持たせた装飾を施す、来場いただいた方が自由に絵を描けるスペースを設けるなど工夫を凝らした展示を行うことができました。

来年度は新一年生を迎え、更に活発に活動していきたいと思えます。

英語愛好会

顧問 土屋 多鶴子

クンスト ニコラス

部長 小林 美桜(3年)

新部長 星 知里(2年)

今年度も国際交流をメインに活動してきました。主な活動は、オンラインで海外の高校生たちとの交流です。昨年同様、韓国、タイとの交流が続いています今年も韓国の生徒たちが本校を訪問する予定です。新しい交流活動としては、中国の黒龍江省の高校生たちとのオンライン交流です。交流会の前には、山形県の国際交流員の方を招き、中国について勉強しました。会には英語愛好会だけでなく、中国について学びたい生徒約三十人も参加しました。お互いの学校について紹介したり、花笠踊りを披露したりしました。後日中国の生徒たちから交流に参

加した全員に手紙が届きました。手紙の内容は、とても詩的で、LineやSNSで送るメッセージとは全く違っていました。

アジア以外の活動としては、タンザニア出身の方をお呼びして、タンザニアについての学習をしました。アフリカについて学ぶのは初めての部員が多く、とても興味深い活動でした。

最後に、今年度の生徒総会で、英語愛好会が部活動になることを承認していただきました。来年度は、国際交流だけでなく、ニコラス先生と英語の活動も行っていきたいと思えます。